

# 平成30年度第2回総合戦略推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成31年1月31日(木) 18時30分～20時15分

2. 場 所 市役所10階 第6会議室

3. 出席者 計21名 有識者 6名(欠席9名)  
関係部長15名

## 4. 議事内容報告

### 1 開会

- 事務局から、会議の進め方について説明

#### (説明要旨)

- 来年度策定する新たな総合戦略に向け、議論すべき論点のたたき台を事務局で取りまとめた。これについて、各委員からご意見やアイデア、ご質問等をいただきたい。
- 論点の絞り込みのため、他の委員の発言で重要だと思った点、共感した点などをご発言いただきたい。

### 2 協議題

#### (1) 平成30年までの人口動向

##### (説明要旨)

- 平成30年12月末の帯広市人口は166,889人で、対前年比764人(0.46%)減、対平成27年比で1,650人減。今回のペースで減少が続けば、2020年の展望人口を下回る見込み。
- 自然動態では、死亡が初めて1,800人を超え、出生が初めて1,200人を下回った。減少幅は平成26年と比べ2倍に拡大。
- 社会動態では、平成30年132人減となり、減少幅が拡大しつつある。特に、若年女性の転出超過傾向、札幌市・東京圏への転出超過の拡大傾向が見られる。
- 合計特殊出生率は平成29年1.42で、上昇傾向にあるものの伸び悩み。
- 道内他市・地域との比較では、増加した札幌圏を除き、減少率が道内最小。
- 外国人が大幅に増加。ベトナム人、技能実習生が主な増加要因。

##### (発言要旨)

特になし

## (2) 新たな総合戦略の策定に向けた論点

### [論点(たたき台)の説明、欠席委員からのご意見]

#### (説明要旨)

- 基本理念「都市と自然の価値共創～フードバレーとかち～」は、十勝・帯広が持つ5つの力を基盤に、この地域の強みを活かし、フードバレーとかちの取り組みなどを通じて広げてきた可能性を開花させようとするもの。
- 4つの基本目標は、今後も大きく変わらないと考えているが、人口減少対策の視点から、取り組みの検証・改善などが必要。このための論点のたたき台を3点に集約した。
- 「論点1：人口減少をできるだけ抑える」は、さらなる少子化や転出超過をできるだけ食い止めるため、どんな取り組みが必要かを議論するもの。例えば、幅広い分野を横断した総合的な少子化対策、地域資源を活かした(若者に選ばれる)魅力ある仕事づくり、(将来を見すえた)幼少期からの中長期的なUターン促進、若年女性の定住に向けた取り組み(仕事づくり、子育て環境等)など。
- 「論点2：人口減少社会に適応する」は、労働力の減少や空き家問題など、人口増加時代には経験したことのない問題にどう対処するかを議論するもの。例えば、交流人口・関係人口の拡大、市街地の低密度化(空家の増加など)への対応、地域課題の解決に向けた新たなコミュニティ(人のつながり)の形成、外国人労働者の受入れ環境づくりなど。
- 「論点3：人口減少をチャンスに変える」は、人口減少のプラス面を積極的に捉えるための発想転換について議論するもの。例えば、子供の個性を伸ばす子育て・教育支援、地域産業の生産性の向上(先端技術の活用等)、ゆとりと潤いのある生活環境づくり、エネルギー自給社会の形成など。
- 欠席委員2名からご意見をいただいた。中野委員は、十勝・帯広への企業進出等を躊躇する負の要因を調査分析した上で、地域の強みや魅力を活かした企業立地(誘致)戦略の策定が必要とのご意見。三品委員は、災害時の対応、特にエネルギー源の自立対策と、労働力人口の減少に伴う人手不足や後継者難等を見すえ、地域の力を結集した産業支援の能力強化が必要とのご意見。

#### (発言要旨)

- (委員質問)
  - 企業進出を躊躇する負の要因として、どんなことが考えられるか。
  - 消費地からの距離が大きく、輸送費がネックとの指摘がある。

### [論点に関する意見交換(1)]

#### (発言要旨)

- 地方創生で人口増となっている自治体を見ると、首長の強いリーダーシップが発揮されているところが多いと感じる。
- 十勝の地理的優位性を活かすには、道東くらいの広がりの中で今後の取り組みを考えていくべき。
- 帯広市は十勝管内で人口のダム機能を果たしているが、札幌市・東京圏には

流出が続いている。帯広市には、都市としての魅力を高め、管内を引っ張って行ってほしい。

- 若年女性の転出超過が重要な課題。女性の活躍支援を進めているが、転出者が十勝に戻りたいというニーズは確実にある。
- 家を建てた人たちに帯広の住みやすさは何なのか聞いているが、自然の豊かさ、静かさ、安心して子供を遊ばせられることが重視されているようだ。仕事も重要だが、そうした面からの取り組みも考える必要がある。
- 隣近所で話ができる、ちょっとしたときに面倒を見てもらえる人間関係が重要だ。
- 近くに外国人の方々が住んでいる。どう暖かく迎えられるかが大切。ちょっとした困りごとを助けてあげたいが、なかなか上手くいかない。

#### (質疑、意見交換)

- 女性の活躍促進には、企業の理解が重要。地元での就業に関心はあっても、定着しない要因を把握する必要がある。
- 女性の働きやすさも大切だが、育児休暇などで仕事に差し支えが生じる面もある。あまり働きやすいのもどうか。
- かつては誰もが子育てや介護を担ってきたが、環境や生活スタイルが変わり、「ストレス社会」を迎える中で少子化につながっていると感じる。家族の絆と言っても、携帯電話だけでつながる家族もある。
- 仕事も大切だが、人間関係の基盤がしっかりしていなければならない。原点は、安心して子供を遊ばせられること、心の拠り所があることではないか。
- コミュニティの最低ラインを維持していくことが重要。町村では濃密な人間関係があるが、帯広では隣の人も分からない程度。
- 昔は、大きなお世話、小さなお世話を焼いてくれる人がいた。お節介をしてくれる人がいることは、とても大切なことだと思う。

#### [論点に関する意見交換(2)]

##### (発言要旨)

- 未婚化・晩婚化、スマホの普及、仮想通貨の流通、産業構造の劇的な変化など、これからどんな社会になるか分からないが、人口は着実に減る。その中で、これからの対策として、AIの導入が必要と考える。トラクターの無人化、セルフレジなどが進んでいるが、行政もセルフ化が必要。
- シルバー人材の活用も広がると思う。働きたい高齢者にいかに活躍していただくか。それでも不足なら外国人の受け入れが必要だが、温かく迎える一方、犯罪などへの対応も求められる。
- 何らかの幸福感を創出することが必要だ。核家族化から「おひとりさま」へ時代が移り変わる中で、人々が連帯感を持てるような道徳教育が必要だと思う。
- 帯広市の空き家はどの程度増えているか。
  - 1年間水道の利用がない空き家は1,000軒前後で推移。危険な空き家の解消や予備軍の管理促進のため、改修補助や相談対応などを進めている。

- 転勤先でペットを飼えるか困る人もいると聞く。空き家を上手く活用できれば。
- 帯広市居住者を市職員として採用すると良いのではないか。
  - 市内居住を働きかけているが、強制はできない。特に、家を建てた後では難しい。
- 若い母親は働きながら子育てしている。泣く子を保育所などに預けて勤めに行くが、高齢者の中にはまだまだ活躍できる人がいる。人のつながりの中で、子育てしやすい環境づくりができると良い。ちょっと見てあげる程度なら手伝えるお年寄はたくさんいると思う。
- ボランティアに関心があっても、どう取り組んでよいか分からない人が多い。元気な高齢者もたくさんいる。他人の役に立つ「しごと」ができるようになる講座などがあれば、誘導できると思う。好きなところで自由に好きな活動ができるよう、行政のテコ入れを期待したい。
- 高齢化に伴い、既存団体の維持が難しくなっている。独力では解散も難しい。単に廃止するのではなく、複数の団体を結びつけ、違う形で存続できればと思う。行政の力添えをお願いしたい。

#### (質疑、意見交換)

- 女性や高齢者に光を当てるのは重要だと思う。
- どこかでボランティアに関わりたいという方は多いと思う。ブラックアウトの時も、自発的な活動が幅広く見られた。ボランティア精神を満たせるようにしていくことが大切。
- 高齢者のエネルギーをどう生かすかが重要だ。地域包括ケアにも関連する。
- 豊かな自然や農業は帯広の最高の財産。例えば、体験農業・観光などが進められると良いと思うがどうか。
- 現在、休耕地はないが、人口減少が進めば生じる可能性はある。札幌や本州では、小さな畑を貸して好きなものを作ってもらう事例もあると聞く。
- 体験農業を通して、住みたいと思う人が増えていけば良いと思う。近隣には、そうした形で移住者が定住したケースも見られる。
- 十勝・帯広は、地域の強みを活かしていけると思う。人々の結束力も強い。農業機械展なども十勝だからこそできる。
- 十勝にはファンが多く、十勝出身者の地元愛も強い。帯広勤務経験者の交流組織などを通し、ファンづくりができるのではないか。
- 帯広の森のスポーツ施設は全国でも有数だと思う。こうしたインフラの強みをもっと生かすべき。
- 帯広の森は一人で散歩するには少し怖いと感じることもある。ボランティアで杖払いなどができると良い。
- 空き家が発生している中で、宅地を広げていく必要はないのではないか。
  - 人口は減少しているが世帯は増えていることが背景にある。無秩序な郊外開発を防ぐため、「コンパクトシティ」の考え方でまちづくりを進めている。空き家の活用などの視点が重要と感じている。

- 空き家を活用したシェアハウスや民泊などが進むと良い。
- 空き家率ほどの程度か。
  - 水道利用を基準とした空き家数として、1,000軒程度を把握している。空き家を様々な用途で活用する事例が出てきており、重要な視点と考えている。
- 若年女性が戻ってこない要因は何か。
  - 大学・短大や専門学校などへの進学で札幌市を中心に人口流出が続いているが、希望する仕事が地元になんか少ないことが背景と考えている。30代後半も転出超過となっており、年代別の分析が必要。
- 光ファイバーの拡張の見通しはあるか。
  - 民間事業者を中心に整備が進み、一定の速度のネットワークができてきている。
- 学校くらいまでは敷設してもらえると良いと思う。

**[全体をとおして]**

**(発言要旨)**

特になし

**3. その他**

- 事務局から今後の予定について説明。

**[市長からコメント]**

**(発言要旨)**

- 2年間、当会議に協力いただき心から感謝申し上げる。
- 十勝・帯広の良さを前向きにお話いただき、大変参考になった。悲観する必要は全くなく、未来を創っていく姿勢で、問題や課題の中にチャンスがあると考えるべきだと感じた。
- そのためには、発想の転換が必要。どの程度の地理的な広がりや時間的な長さで考えるのかという目線の置き方、あるいは、一つのことを裏から見たりズラしてみることが大切だと思う。
- 帯広の住みやすさや便利さを見つめ直す必要性も述べていただいたが、本質的なことだと思う。これから何を求めていくのか、改めて考えるタイミングに来ている。
- 高齢者のエネルギー、家族力、ボランティアなど、助け合いの力についても、見直しが必要だ。減っていくものに目線を置かず、増えていくものに注目するべきだと思う。
- 今回のご意見を参考に、次に向けて議論を進めていく。今後ともお力添えをいただきたい。

以上